

キャリアプランニング・マトリックス(試案)

観点解説 改訂版

【人間関係形成能力】

この能力領域について

この能力領域は、他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組むことを示している。

〈構成図〉

	小学部	中学部	高等部
人間関係形成能力	人とのかかわり	自己理解・他者理解	
	集団参加	協力・共同	
	意思表示		
	挨拶・清潔・身だしなみ	場に応じた言動	

考えられる指導内容（例）の凡例

「単元題材名」の（ ）内の注釈

《指導形態、教科・領域名》

日生・・・「日常生活の指導」
遊び・・・「遊びの指導」
生単・・・「生活単元学習」
作業・・・「作業学習」
総合・・・「総合的な学習の時間」
特活・・・「特別活動」

《学部等》

小・低・・・小学部・低学年
小・高・・・小学部・高学年
中・・・中学部
高・・・高等部

【人間関係形成能力】

人とかかわり，自己理解・他者理解 系列

○この系列について

この系列は，人とかかわることで，自分のよさに気づきそれらを発揮し伸ばすことと，仕事や役割を遂行するために必要な他者との関係形成を図ることの重要性，そして，他者との望ましい人間関係を築くため，相手と自分との関係に気づき，他者との共通点や差異を理解することが大切であることを示している。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
	自己理解・他者理解	
人とかかわり		

人間（小）

人とかかわり

① 育てたい力

小学部 ○自分の良さへの気づき

- ・自分の好きなもの，好きなことをもつ。
- ・自分らしさを発揮し、のびのびと活動する。
- ・教師や友達とかかわり，一緒に活動する中で自分の良いところや得意なことを表現する。

○友達の良さに気づき

- ・友達と仲良く遊ぶ。
- ・友達を認め，友達の良さに気づく。

② 解説

小学部低学年段階では，教師や友達など人とかかわりを豊かにし，共に活動する中で，「自分のよさ（長所）」，すなわち達成できたことを喜び，自らの得意なことに気づけるようにすることが大切になる。学校や家庭において，本人の得意なことを認め，褒めることがさらに長所を伸ばすことにつながる。

小学部高学年段階では，自分のよさや将来の可能性などに気づき，漠然としながらも将来への夢や希望（キャリアファンタジー）を描き，将来に目を向ける機会などを設けることも大切である。また，友達とかかわって遊んだり，進んで集団活動に参加したりする中で，いろいろな友達がいることを知り，友達の良いところや自分と違うところを認めることができるような働きかけが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
先生と一緒におもちゃで遊ぶ（遊び：小・低）	遊びの中で好きなことや好きなものを見つける	いろいろなおもちゃを使い，はたらきかけを工夫して興味を引き出すようにする。
設定された遊びのコーナーでの遊び（遊び：小・低）	友だちの遊びを意識して遊ぶ	友達の遊びが意識できるように，遊びの場やおもちゃの設定を考える。
ボールを使った運動（体育：小・高）	ボールを使い，相手を意識しながら運動する	ペアを組み，声を掛け合いながらボールの受け渡しなどをする。また，二人組でパスをしながらシュートなどのルールを設定して活動する。
得意なことの発表（生単，特活：小・高）	友達の良さに気づく	発表を通して相手のことを知り，認めあえるような場を設定する。

人間(中高)		自己理解・他者理解	
① 育てたい力			
中学部	○達成感に基づく肯定的な自己理解，相手の気持ちや考え，立場の理解		
	・「分かった」「できた」という体験の中で自己有用感を得る。		
	・自分と相手の違いに気付き，異性や異年齢の人たちとともに活動する。		
高等部	○職業との関係における自己理解，他者の考えや個性の尊重		
	・産業現場等における実習等，実際的な体験を通して，自己の能力や適性を知る。		
	・自分の言動が相手に及ぼす影響について知る。		
	・他者の考えや個性を尊重し，自分との差異を認めながらも受容する。		
② 解説			
中学部段階では，生徒が達成感に基づいて自信を持ち，自らを肯定的に理解する経験を積み重ねることで，自己有用感を高めるようにしたい。職業・家庭や生活単元学習，作業学習などで，達成感や成就感をもって働く活動を積み重ね，働くことに関心が持てるようにすることが大切である。家庭では，連絡ノートなどを活用することで，学校での本人の成果を共有し，努力や取組を認めることが考えられる。			
また，中学部段階では，異性や年上・年下の相手を理解し，相手の気持ちや考え，また相手の立場や役割を考えることも必要である。さらに，自分の言動の影響について考える機会を設けることも大切である。			
高等部段階では，達成感や成就感がもてるような体験の積み重ねが肯定的な自己理解へとつながり，肯定的に自分をとらえることが重要である。例えば，自己と他者の違いを意識し自分のことを考える授業を行ったり，産業現場等における実習（以下，現場実習とする）の日誌等を活用して自己を振り返ったり，報告会で発表する機会を設けたりすることなどが考えられる。			
また，作業学習時で，仕事に必要な技能が自分に備わっているかなどの自己理解を図れるように配慮する必要がある。自分の仕事に責任がもてるようにするためには，作業結果を自ら確認できるようにすることが重要である。さらに，他の人が分担している作業内容についての理解を図り，作業結果を相互に評価できるように配慮することも重要である。			
他者の考えや個性を尊重し，自分との差異を認め，時には他者から学ぶことも大切である。例えば先輩の話を聞いたり，他者と進路について話し合ったりする中で，自分の考えや価値観が明確になるようにしたい。他者を理解し，思いやりの心を持てるようにするためには，様々な人たちと交流する場を設定することが大切である。			
③ 考えられる指導内容（例）			
単元・題材名		ねらい	留意点
自分を知ろう （生単，総合：中・高）		自分の好きなこと，嫌いなことなどを確認する	好きなこと，嫌いことの他に得意なこと，苦手なこと，出来ないことなども確認する。また，友だちの良いところを見つけるように留意する。
他校との交流 （生単，総合：中）		友達の良いところを認め，互いに高め合う	交流当日に向けて，自分ができることを精一杯発揮できるように準備をする，当日は友達の良いところを見つけるような場面を作るよう留意する。
男女の理解 （保健体育，生単：高）		男女の違いや，互いの特性について理解しあう	違いだけに注目するのではなく，それぞれの特性を生かして協力できるように働きかける。
自分探し （生単，総合：高）		自分の得意，不得意，適性などを理解する	自分史などを作り，今までの経験や学習によってできるようになったことを振り返りながら，自分について考えることができるようにする。
作品の鑑賞 （美術：中・高）		作品を見合って，良さに気づいて次に生かす	友達が工夫している点を探し，優れているところを褒め，今後の意欲や制作の参考にできるようにする。

【人間関係形成能力】

集団参加，協力・共同 系列

○ この系列について

この系列は，集団内での協力関係を形成し，相互の好ましい人間関係のもとで，協力して目標を達成することのよさに気づくことと，将来的に家庭や社会の一員として協力・共同して仕事や活動に取り組むことの重要性を示している。

○ 系列の構成図

小学部	中学部	高等部
	協力・共同	
集団参加		

人間(小)

集団参加

① 育てたい力

小学部 ○大人や友達とのやりとりと集団活動への参加

・集団活動に進んで参加し，教師や友達との良い関係を築きながら活動する。

② 解説

小学部低学年段階では遊びの中で教師と児童，児童同士のかかわりをもつことが基本となる。集団生活で共通の興味や関心をもつことや，一緒に活動する楽しさを味わえるようにすることが大切である。

小学部高学年段階では，進んで集団学習に参加し，集団内で他者の行動を自分の行動のモデルにしたり，集団に合わせて行動したりすることも大切である。また，共に活動に取り組むことで仲間意識を高め，責任感や達成感を感じることができるようにしたい。

学校生活全般をとおして友達と仲よく遊んだり，助け合ったりする経験を積み重ねることで，友達のよさをより強く感じることができるようになる。そして，身近にいる友達と一緒に活動する中で，助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。

また，小学部段階から，地域の子供会や町内会の催しに参加して楽しい雰囲気を味わうことも大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
友だちと一緒に遊ぼう (遊び：小・低)	集団の中で遊ぶことができる	教師とのかかわりを基盤として集団に入り，徐々に友達とのかかわりに慣れていくようにする。
集団遊び (遊び：小・低)	友だちと同じ遊びをすることができる	鬼ごっこや，乗り物ごっこなど友達と関わりながらできる遊びをとり入れる。
クラブ活動 (特活：小・高)	異年齢集団の中で，いろいろな友達と関わる	クラブの運営の役割を上級生と下級生がペアで行ったり，分担して取り組んだりできるようにしていく。
おみこしづくり (生単，美術：小・高)	御輿を協力してつくる	製作の過程で友達と協力し，作ったみこしを実際に使って活動することで，みんなで作ったという達成感を味わえるようにする。

人間(中高)		協力・共同	
① 育てたい力			
中学部	○集団における役割の理解と協力 ・ 集団活動における目的を共有し、役割を理解して、協力して成し遂げる。		
高等部	○集団（チーム）の一員としての役割遂行 ・ リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームとして協力・共同して活動に取り組む		
② 解説			
中学部段階では、作業学習等の活動において、困ったときには他者から教えてもらったり、他者が困っているときには助けたりしながら、集団（チーム）としての目的を共有し、協力しながら活動に取り組むことが大切である。実際の作業では、自分と仲間との作業分担の関連性を理解して、自分の仕事を責任をもって行うことが大切である。そして、集団で取り組む満足感を味わえるようにする。仕事のきまりや指示などを守り、必要なとき以外は、人の仕事に不要な手出しや口出しをしないこともこの協力・共同に含まれる。他には、サッカーや、バスケットなどの集団スポーツに取り組むことも集団における自分の役割を学ぶよい機会となる。 また、友だちと地域の活動に参加し、地域の人と協力して行事の準備や後片付けに取り組むこともよい経験となる。			
----- 高等部段階では、集団内における自分の役割や関係性を理解し、他者と協力して活動に取り組むことが大事である。作業学習等の活動場面において、同じ工程を他者と一緒に取り組んだり、工程をいくつかに分けてそれぞれが分担して取り組んだりする場合、他者の失敗に気付いたら相手にそのことを伝えたり、自分が分からないときや困ったときに他者に聞いたりしながら、チームとして協調して仕事をするのが大切である。また、職場には様々な立場の人がいることを理解し、チームの一員として、リーダー、フォロアーの関係を理解し、自分の役割や責任を果たすことが大切である。 協力・共同を進めるためには、活動の中でお互いに助けたり助けられる経験を積み重ねる中で、互いが尊重し合い、感謝する気持ちをもてるようにしたい。			
③ 考えられる指導内容（例）			
単元・題材名		ねらい	留意点
流れ作業での製作活動 （作業：中・高）		自分の役割を自覚し、自分の工程の成果を次の人に引き継ぐ	作業工程を分担し、前の工程からまわってきた仕事を責任をもって扱い、次の人に渡すときは確実に声がけをすることなどを約束事として確認する。
サッカー・バスケット （保健体育：中・高）		チーム内の役割を理解してプレーする	役割（フォーメーション等）を決めて試合を行ったときと、決めないで行ったときの試合展開の違いを振り返られるような場面をつくる。また、メンバー内で技能差が大きい場合には、シュート専門の生徒などを決めるなどのルールを工夫する。
学習発表会・販売会等の企画・運営 （生単，作業：中・高）		役割を分担し、協力して会を企画・運営する	係分担では、各係の役割やその係と全体との関係をの明確にし、生徒が自ら選んで活動できるようにする。できれば生徒達だけで話し合う場面を設定する。
合奏・合唱 （音楽：中・高）		パートに分かれ演奏の練習をし、合奏・合唱をする	友達同士で互いの演奏を聴き合ったり、仕上がりの様子を確認しながら練習する。発表では、練習の成果を精一杯出し、一体感を味わえるようにする。

【人間関係形成能力】

意思表示 系列

○この系列について

この系列は、活動の目的を果たしたり、職務を遂行したりするために、自分の思いや意見を分かりやすく他者に伝えることの重要性を示している。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
意思表示		

人間（小）

意思表示

① 育てたい力

小学部 ○日常生活に必要な意思の表現

- ・要求、拒否、許可、応答、説明、思いなど、自分の意思や感情を表現する。
- ・見たこと聞いたこと感じたことを簡単な言葉などで表現する。

② 解説

小学部低学年段階では、最初は特定の人との関係の中で「はい」「いいえ」「いや」等自分の意思表示をすることから始まる。また、尿意や痛みなどの身体的な感覚や要求を必要に応じて身近な人に伝えることも大切である。

また、「ありがとう」、「ごめんなさい」など、人への感謝や謝罪の気持ち、「～ください」「～いいですか」などの要求や、「手伝って」などの援助依頼、「終わりました」などの報告や、「～してもいいですか」許可など状況に応じた意思を表現できるようにしたい。

小学部高学年段階では、経験したことをもとに自分の思いや考えを話したり、文章にしたりして人に伝えることで大人や友達との関係づくりを行うことが大切である。

表出言語がない児童の場合は、指さしや身振り・手振り、絵カードなどを使った表現の方法を早い段階から身につけていきたい。また、意思の表現は言葉だけでなく、歌や演奏、絵に描くなど多様な方法があることにも留意する。

家庭では、学校での出来事を話す機会を設けたり、逆に学校では家や地域での出来事を発表する機会を設定したりすることが大切である。その際は、本人の意思や表出を大切にし、先回りをしないで待つなどの支援を行うことが重要である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
家での様子を話す （日生：小・低）	家での出来事を自分なりの表現方法で伝える	形式的な内容から始め、人に伝えることに慣れてから徐々に内容を充実していく。
遠足の思い出をかこう （生単，国語：小・低）	体験した出来事を絵や文字・文章で表す	一番印象に残ったことを描いたり、話題の中心になるようにする。
お使いをしよう （遊び，生単：小・低高）	頼まれた用件・用事をこなす	児童生徒の実態に合わせ、用件の書いてあるカードを使ったり、依頼事項を覚えて話したりなど、難易度を考慮して取組めるようにする。
劇活動 （遊び，生単：小・低高）	セリフを覚え、大きな声や身振りで表現する	見る人にセリフや動きがわかるような声の大きさや動きを教えて練習をする。

人間（中高）

意思表示

①育てたい力

中学部

○社会生活に必要な意思の表現

・ 集団の中で，自分の思いや意見を適切に表現する。

高等部

○必要な支援を適切に求めたり，相談したりできる表現力

・ 必要な情報を伝えたり，自分の悩みを話せたりする関係を築き，自分の思いや意見を適切に伝える。

②解説

中学部段階では，集団の中で相手の意見を聞いて自分の意見を述べるなど，自分の思いや意見を適切に表現することが大切である。意見を言う際には，感情や状態，動作などを表す言葉を使い，できるだけ順序立てて用件を話せるようにしたい。また，話すときには，声の大きさや速さなどに気をつけることも大切である。

また，作業学習等においても作業上の大切な報告や連絡がしっかりできるように，活動場面を設定したり，働きかけや支援ツールなどの手だての工夫をしたりすることが重要である。

高等部段階では，活動の目的を果たすために必要な情報を伝えることや，自分の考えや意見をできるだけ適切に述べられるようにすることが大切である。電話で欠席や遅刻などの用件を正確に伝えることができるようになることも必要となる。

また，必要に応じて支援を求めたり，自分の悩みを話せる人をもつことも大切である。困ったときには相談する，大切なことは一人で決めないで身近な人に相談して決めるということを体験できるようにしたい。そのためには，相談できる人との関係づくりや，手紙やメール等でのやりとりができるようにすることも重要である。

初めての場所での活動や現場実習では，自分のことについて話し，自己をアピールすることも考えられる。また，活動後には一番印象に残ったことを相手に伝えられるようにしたい。

③考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
夏休みの思い出 （生単，国語：中・高）	体験した内容を相手に分かるように伝える	5W1H等，意識するポイントを提示し，見たこと，聞いたこと，したこと，感じたことなどを表現に盛り込み，体験した様子が分かるように留意する。
作業に必要な報告をする （作業：中・高）	作業をすすめる際に必要な報告等を行う	作業の中で「できました」「お願いします」などの報告，連絡の他に「次に何をすればよいですか」など必要なことばを相手に伝える場面を活動の中に設定する。必要に応じて手がかりカードを準備する。
電話で用件を伝える （生単，国語：中・高）	電話で必要な用件を伝える	はじめは手順表などの補助手段を利用して用件を伝えることができるようにし，回数をこなして慣れるに従って，補助手段を減らしていく。
自己紹介 （総合，特活：中・高）	自分のことを自分なりの表現で相手に伝える	学年，名前，学校などの他に，好きなことや自分の夢，がんばっていることなど，その後の会話につながる内容を盛り込んだ内容を押さえるようにする。
自分の思いを話す （生単，総合：高）	相手に自分の思いを素直に表現する	カウンセラー等と話す場面の設定や，話しやすい雰囲気を作ることにより，悩みや困ったことを相談することの良さを感じることが出来るようにする。

【人間関係形成能力】

挨拶・清潔・身だしなみ、場に応じた言動 系列

○この系列について

この系列は、新たな人間関係を築いたり、深めたりしていくために、時と場に応じた挨拶・言葉遣い、衛生観念と身だしなみ、場の目的に応じた振る舞いなどを身につけることの重要性を示している。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
	場に応じた言動	
挨拶・清潔・身だしなみ		

人間（小）

挨拶・清潔・身だしなみ

① 育てたい力

小学部 ○挨拶，身だしなみの習慣化

- ・挨拶を自分から行う。
- ・清潔や身だしなみに気をつける。

② 解説

小学部低学年段階では、教師と一緒におじぎをしたり、手を振るなど、動作を伴う挨拶をすることからはじめ、徐々に身近な人へ挨拶できるようにすることが大切である。そして清潔や身だしなみでは、歯磨きや、洗面、手足を洗うことなどについて習慣づけるようにしたい。また、衣服の着脱時などには、身体各部や衣服の汚れや、衣服の前後・表裏などの状態に気をつけるようにしたい。

小学部高学年段階では、「失礼します」などの入退出時の挨拶等についても習慣づけていくことが大切である。清潔や身だしなみでは、清潔を意識できるように、日常的に下着を交換し、簡単な洗濯ができるようにしたい。また、着替えの際にそで口や襟元、裾などに自分から気づくようにしたり、寒暖や天気、活動や場所などに合わせて衣服を選べるような配慮が必要である。また、清潔や身だしなみは、快適な状態を持続することの良さに気づくなど、習慣化に向けての手だてを児童の実態に合わせて行う必要がある。

入浴や身だしなみの指導については、学校よりも家庭での機会が多いため、家庭と協力して継続した取り組みが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
あいさつ運動をしよう （日生：小・低）	出会った人に自分からあいさつを行う	はじめは決まった場所（校長室・事務室等）で挨拶をすることから始め、徐々に対象を増やしていく。
身だしなみチェック （日生：小・低，高）	身だしなみの善し悪しに自分から気づく	身だしなみの良い例と悪い例の写真や絵を見せて、おかしいと思うところを指摘し、改善方法を話し合う。また、自分自身の身だしなみについても意識できるようにする。身だしなみの確認は、チェック項目を見ながら自分で確認できるよう手だてを考える。
手洗い （日生：小・低，高）	手洗いの大切さに気づき、習慣化する	手洗いでは、普段の方法で手洗いし、その後に汚れに反応する薬品を使用し、視覚的に洗い残しに気づけるような工夫をする。

人間（中高）

場に応じた言動

① 育てたい力

中学部

○状況に応じた言葉遣いや振る舞い

・相手の立場を考えて話したり行動したりする。

高等部

○ＴＰＯに応じた言動

・場や状況に応じた適切な言葉遣い，服装，身だしなみを心がける。

・電話のマナーや訪問時のマナー等を身につける。

② 解説

中学部段階では，報告・連絡などを行う際の言葉遣いに気をつけることが大切である。この年代は，恥ずかしさからていねいに挨拶ができないことも考えられるが，相手を尊重する気持ちを持ち，自然な言動としてできるように指導したい。また，電話などでの応対の仕方や言葉遣いも大切である。制服の着方についても，普段から制服を着る際に襟の乱れやシャツやブラウスの裾のはみ出しなどに気をつけることができるようにしたい。

また，旅行等で準備する物についても，必要に応じて自分で用意したり，片付けをしたりすることができるよう意識することが大切である。

高等部段階では，自分で考えて行動できることが大切であり，場や状況に応じて適切に話すことが求められる。会話では，一方的に自分のことだけを話すのではなく，相手の話を聞いてから話すことや，必要に応じて敬語を使えるようにしたい。服装や身だしなみも，場や状況にふさわしいものを選んで着たり，衛生面に配慮したり，ひげを剃るなど相手に不快感を与えないようにすることが大切である。現場実習で事務的な仕事をする際の事前学習として，外部からの電話の応対をすることが考えられるが，普段から学校内においても，場に応じた言動が求められる活動設定や状況づくりに努めることが大切である。活動例として接遇を採り入れ，来客への対応を通して取り組んでいる学校もある。職業生活に必要なＴＰＯは，現実的な場面において指導することがより有効であり，家庭や地域生活における活動や現場実習などの機会を活用することが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
宿泊学習などでの持ち物準備 (生単：中・高)	宿泊に必要な物品が分かり，自分で準備を行う	準備物のリストを見ながら必要な物を確認し，寄宿舎や家庭での協力を得て，本人が実際に準備できるようにする。高等部では必要なものを自分でリストアップすることも大切である。
ＴＰＯに応じた服装選び (生単，職業・家庭：中・高)	様々な場面にふさわしい服装を選ぶ	作業や運動，訪問などにふさわしい服装を実際を選び，選んだ服装が場にふさわしいものかについて話し合いをしながら考えるようにする。
面接指導 (生単：中・高)	入退出のマナーや言葉遣い，質問事項の受け応えに慣れる	面接の流れや目的について学習した後，練習の様子を撮ったビデオをみて，自分で態度や言葉遣い等を振り返るようにする。
喫茶コーナー等での接客 (作業：中・高)	接客のしかたについて知り，実際に体験する。	基本的な動きやトラブルへの対応について練習を行い，友達同士で改善点を指摘し合う。また，実際に教師や他のクラスの友達を招いて接客し，改善への意見をもらうなどして接客技術の向上に向けて考えられるようにする。

キャリアプランニング・マトリックス(試案)

観点解説 改訂版

【情報活用能力】

情報活用能力について

この能力領域は、学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かすことを示している。

〈構成図〉

	小学部	中学部	高等部
情報活用能力	様々な情報への関心	情報収集と活用	
	社会資源の活用とマナー		法や制度の活用
	金 銭 の 扱 い	金銭の扱いと管理	消費生活の理解
	はたらくよろこび	役割の理解と働くことの意義	

考えられる指導内容（例）の凡例

「単元題材名」の（ ）内の注釈

《指導形態、教科・領域名》

日生 . . . 「日常生活の指導」
 遊び . . . 「遊びの指導」
 生単 . . . 「生活単元学習」
 作業 . . . 「作業学習」
 総合 . . . 「総合的な学習の時間」
 特活 . . . 「特別活動」

《学部等》

小・低 . . . 小学部・低学年
 小・高 . . . 小学部・高学年
 中 . . . 中学部
 高 . . . 高等部

【情報活用能力】

様々な情報への関心、情報収集と活用 系列

○この系列について

この系列は、様々な事象や情報に興味・関心を持ち、いろいろな情報の中から必要な情報をとりだして活用したり、進路学習や作業学習、産業現場等における実習等や進路選択の際に、情報を適切に選択したり、活用できることを示している。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
	情報収集と活用	
様々な情報への関心		

情報(小)

様々な情報への関心

① 育てたい力

小学部 ○仕事、働く人など身の回りの様々な環境への関心

- ・周囲の様々な環境に興味や関心をもつ
- ・家庭や社会の様子、身近な仕事や職業に興味をもつ。

② 解説

小学部低学年段階では、まず、児童の実態に応じた日程表等を手がかりに、一日の流れが理解できるようにしたい。また、教師と一緒に身近な人や社会及び自然に触れて興味や関心の幅を広げることが大切である。さらに家庭では、家族の役割や仕事を知り、地域の店や働く人と接する機会を持ち、仕事や働く人などに興味や関心をもてるようにすることが大切である。

小学部高学年段階では、低学年段階に引き続き体験的に興味・関心をもてるものを増やすことに加えて、身近に目にするマークや標識・看板などの情報を読み取ることや、見たり聞いたりした内容のおおよそを理解できるようになることも大切である。また、家族の仕事など身近に接することができる職業について興味や関心をもつとともに、様々な情報をテレビやビデオ、図鑑や本などで知る経験を重ねることが重要である。さらに、自分にとって大切なものを知り、丁寧に保管できるようにしたい。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
校内の様子を知る (遊び：小・低、高)	校内の様子やそこで働く人について調べる	例えば、保健室と養護教諭の写真等、調べた結果をセットにして、その場所の機能とそこで働く人が一致できるように整理しておく。
学校周辺を調べる (遊び、小・低、高)	近所の店や建物等を見てその役割と特徴を知る	実際にその場所に出かけ、聞いたことや撮った写真を基に地図を作成し、周りの様子に興味や関心を深められるようにする。
家族の仕事について調べる (生単：小・低、高)	家族や親戚、近所の人の仕事に関心を持つ	家庭や近所の人にインタビューなどを行い、その様子を発表する機会を設ける。
身近な人の仕事ぶりを見る (生単：小・低、高)	身近な人の仕事や職業に関心を持つ	校外学習等で働く人を見る機会を設け、自分が興味を持った仕事について調べ、その仕事に関する模擬的な活動を行い、興味や関心を深めるようにする。

情報(中高)		情報収集と活用	
① 育てたい力			
中学部	○進路をはじめ様々な情報の収集と活用		
	・社会の出来事に興味を持ち、働く人や仕事について調べる。		
	・情報を得るためには、様々な方法があることを体験を通して理解する。		
高等部	○職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用		
	・政治、経済、文化などの情報に興味を持ち、職業生活に必要な事柄を調べる。		
	・必要な情報を得るための様々な方法を活用する		
② 解説			
中学部段階では、テレビや新聞等で見聞きする様々な出来事や身近な情報（例えば、利用する交通機関、天気などの気象情報、地域の行事等）に興味・関心をもち、調べたり、実際に活用したりすることが考えられる。			
また、高等部への進学のことや、将来の生活、学校周辺の店や施設、職場見学や現場実習を行う企業や福祉施設に関する情報を図書館（図書室）やインターネット等で調べたり、調べたことを整理し、発表したりする経験が大切である。また、調べた情報はファイリングするなど自分で整理・管理することが大切である。			

高等部段階では、政治・経済、文化などの情報に興味・関心を持てるようにし、生徒の身近な地域における出来事や、社会一般の事象や地域の産業等の情報等を取り扱うことが考えられる。			
また、「職業生活に必要な事柄」とは、生産品や製品の名称や流通の仕組み、企業や施設の組織や就業規則、求人票などの書類の書き方、通勤方法や安全・衛生及び健康の維持などが考えられる。これらは、職場見学や現場実習、働いている先輩に話をきくなどの体験的な活動を通して知ることが大切である。			
情報収集とは、例えば自分でメモをとる、インタビューやアンケートを行う、インターネットで検索する、街で見かけるポスターやチラシなどの資料などを集めるなどの方法があるが、様々な情報収集の方法を知り、集めた情報を必要なときに活用できるように分類し、ファイリングすることが大切である。また、生徒にとって重要な情報を校内に掲示するなど、必要とする情報に気づけるような環境の工夫も大切である。			
③ 考えられる指導内容（例）			
単元・題材名		ねらい	留意点
バス・電車の経路・運賃調べ（生単：中・高）		目的地までの情報を、様々な方法で調べる	時刻表を見る、インターネットのホームページで調べる、電話で問い合わせる等様々な方法があることを知り、利用できるようにする。
実習先の情報を調べる（生単：総合：中・高）		実習先について調べて、仕事内容等を理解して見通しをもつ	進路ファイル、インターネット、電話など情報を得るための様々な方法を知ることや、発表や掲示を通して友だちの調べたことに関心を持てるようにする。
広告やチラシの情報を読み取る（生単，数学：中・高）		必要な情報がどこに書いてあるかが分かる	同じ商品が掲載されている新聞の折り込みチラシを複数用意し、好きな商品を探して値段を比べるなど興味を持って活動できるようにする。
ハローワークの利用の仕方（生単，総合：高）		ハローワークでの相談の方法や利用に慣れる	将来一人で利用できるように、ハローワークに実際に出向き、相談の受け方や必要な情報の検索を担当者と一緒に行う機会を設ける。

【情報活用能力】

社会資源の活用とマナー、法や制度の活用 系列

○この系列について

この系列は、職業生活や社会生活にはきまりや制度があることを知り、それを守ることの大切さと、社会の様々な仕組みやサービスを活用し生活に役立ていくことを示している。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
		法や制度の活用
社会資源の活用とマナー		

情報（小中）

社会資源の活用とマナー

① 育てたい力

小学部 ○地域社会資源の活用と身近なきまり

- ・ 公共施設や交通機関、いろいろな商店などを実際に利用する。
- ・ 身近なきまりやマナーに気づきそれらを守って行動する。

中学部 ○社会の仕組み、ルールを理解

- ・ 地域社会で活動するための仕組みやルールを体験を通して理解し、生活に生かす。

② 解説

小学部低学年段階では、まず、簡単なルールのある遊びをすることから始める。また、道路の歩き方や横断歩道の渡り方など、教師や保護者と一緒に学ぶ機会を設ける。

小学部高学年では、友達同士で簡単なルールやきまりを作ったりすることも考えられる。また、校外学習などで公園や図書館などの公共施設やバスなどの公共交通機関、スーパーやコンビニエンスストアなどに行き、マナーを守って利用することが大切である。

家庭においても、靴を揃えておくことや、食事の仕方など、マナーについて考えたり、実際にマナーに気をつけて公共機関を利用する機会を設けるとよい。

中学部段階では、時間割に沿って行動する、ごみを出す曜日を守るといった地域社会の基本的なきまりを守って生活することが大切である。地域生活の中できまりやマナーを守ることを身に付けることが、円滑な社会生活を営むために大切であることに気づけるようにしたい。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
順番を守る （遊び：小・低）	人が並んでいるときには割り込まないで待つ	学校では、ゲーム等をする際に順番を守るよう指導するとともに、機会を見つけて校外の公衆トイレや券売機などで列に並んで利用する経験を行うようにする。
安全に気をつけて歩こう （遊び、生単：小・低、高）	道路の端を歩く、信号を守って横断する	学習後に、実際に目的地まで歩く活動を採り入れ、繰り返しにより、道路の歩き方や渡り方を身に付けていく。
図書館で本を借りる （生単、国語：中）	本を借りる手順や返し方が分かる	図書館で会員証発行の手続きを本人が行い、会員証を作って本を借りることを経験する。また、実際に休日等に活用できるようにする。

情報(高)		法や制度の活用	
① 育てたい力			
高等部 ○社会の様々な制度やサービスに関する理解と実際生活での利用			
・ 社会のルールや制度，職業に必要な資格，各種サービス，相談機関等に関する情報や知識，社会生活上の規範，法の遵守，権利侵害等への対処方法などを理解する。			
② 解説			
高等部段階では，社会生活を送る上での法律，制度や資格を理解することが大切である。例えば自動車を運転するためには運転免許が必要なこと，職業によっては資格が必要なこと，選挙権や年金，保険，手帳等の福祉制度の仕組みなどが挙げられる。			
また，就職に当たっての求職登録や労働条件としての勤務時間や賃金，年次休暇，福利厚生，健康保険などの知識についても，社会人講師などの活用により学習することが考えられる。			
また，ＩＣカードや駅での自動券売機の利用，携帯電話の使い方や料金体系，インターネットでの買い物の仕組みや安易な契約の怖さやなどについて触れておく必要がある。			
これらのことは，全てを自分で理解し，できるようになることは難しい場合も多いので，相談できる人を見つけたり，相談機関を利用して問題を解決できるような環境を整えることが大切である。			
また，高等部を卒業すると学校生活とは違った様々な権利と義務が生じる。まずは法を守り，悪いことはしてはいけないという規範意識を高め，自分の権利が侵害されたときにはそのことを相手に伝えたり，誰かに相談したりできることが大切である。			
これらのことは実際には体験できないものもあるので，ロールプレイ等を行い，対処方法や相談方法を具体的に考えていけるようにすることも有効である。			
③ 考えられる指導内容（例）			
単元・題材名		ねらい	留意点
療育手帳の活用 （生単，総合：高）		療育手帳を提示するとバスや電車の運賃が割引になることが分かり，利用する	自治体や会社によって，割引の制度や利用のしかたが異なるので，生徒の出身の自治体や運輸関係の会社に確認する必要がある。 また，家庭によっては手帳を保護者が管理していて本人が使用していないことも考えられるので，相談の上，実際に手帳を使う機会を設けたい。本人が利点に気づき，手帳を大切に管理できるようにしたい。
携帯電話の利用について （生単，総合：高）		携帯電話の契約，料金体系，通話料などについて理解する	携帯電話に関しては，通話やメール使用のマナーはもとより，料金体系や契約、通話・通信料も複雑であるので，携帯電話会社の方等に講師になってもらい，実際に電話機の使い方や料金の試算をするなどして実感がもてるようにする。また，在学中の電話機の管理の方法と合わせた指導が必要である。
法律について （生単，社会，総合：高）		身近な法や制度を知る	社会生活を送る上で自分に直接関わることとして，例えば喫煙，飲酒ができる年齢，盗みや人を傷つけてはいけないこと，選挙権などの法律や制度を自分たちで調べ，その大切さに気づけるようにしたい。
人権について （生単，道徳：高）		守らなくてはならないきまりばかりではなく，権利もあることがわかる	全ての人間には人権があり，誰もが同じように人間として尊重されなければならないということを踏まえ，人権が侵されたときには，相手に伝えたり，誰かに相談したりするなどの具体的な対応方法についても押さえるようにする。

【情報活用能力】

金銭の扱い、金銭の使い方と管理、消費生活の理解 系列

○この系列について

この系列は、お金の扱いに慣れ、金銭の大切さや管理の方法を理解し、卒業後の社会生活においては、働いて報酬を得ることや、計画的な消費生活を送ることの大切さを示している。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
		消費生活の理解
	金銭の使い方管理	
金銭の扱い		

情報（小）

金銭の扱い

① 育てたい力

小学部 ○体験を通じた金銭の大切さの理解

- ・お金を使って買い物をすることに慣れる。
- ・お金の大切さに気づき、無駄遣いしないような使い方をする。

② 解説

小学部低学年段階では、教師と一緒に店に行き、実際にお金を使って、商品を買う経験をするのが大切である。その際、財布を落とさないように気をつけ、店の人にお金を渡したり、おつりをしまったりするなど、お金を大切に取扱うことが大切である。

小学部高学年段階では、日常生活でお金が必要なことを理解し、お金の大切さが分かることが大切である。店や自動販売機、交通機関等で実際にお金を使うことで、お金の価値を理解できるようにすることが重要である。また、状況に応じて硬貨や紙幣を組み合わせ使用経験も考えたい。

家庭では、家族と一緒に買い物をする際にお金を支払ったり、おつかいをする機会をつくるとよい。また、お小遣いやお年玉でもらったお金をすぐに使わずに貯金したり、計画的に使ったりするなど無駄遣いしないような指導を、家庭との連携のもとに行うことが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
自動販売機で飲み物を買う（遊び、生単、算数：小、低・高）	硬貨の扱いに慣れる	100円玉や10円玉を投入口に入れ、ボタンを押すと品物が出ることを繰り返しの経験で理解できるようにする。
教員と一緒に買い物をする（遊び、生単、算数：小・低・高）	お金の扱いに慣れる	買い物は、好きなものを買う、複数のものを買う、おつかいで人から頼まれたものを買うなど様々なバリエーションを経験できるようにする。校内での模擬的な学習に加えて、実際にお店でのやりとりを繰り返すことが大切である。
計画的な買い物をする（生単、算数：小・高）	お金の大切さを意識する	買いたいものをすぐ買うのではなく、お金を貯めて、大きな金額の買い物ができることの重要性が意識できるようにする。また、本人の欲しいものなどを例に挙げて学習できるよう留意する。

情報（中）		金銭の使い方と管理	
① 育てたい力			
中学部 ○消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費			
・生活するために必要なものを計画的に消費することや預貯金などを通して保管の大切さを知る。			
② 解説			
中学部段階では、消費生活に関する基本的な事柄として、納税の義務、物品には消費税がかかることや預貯金の仕組みが挙げられる。また、家庭と連携しながら、小遣い帳をつけることなどを通して、計画的なお金の使い方を知ること大切である。また、金銭の使い方については、取り扱う金額を大きくしていきながら、さらに金銭の扱いに慣れ、計画的に消費することが大切である。			
また、日常生活での使用頻度が増えている現金や切符に代わる各種カードや電子マネーなどの使用については、個々の生徒の実態や地域性などに応じて指導することが望ましい。			
③ 考えられる指導内容（例）			
単元・題材名		ねらい	留意点
予算内で買い物をする （生単，数学：中）		予算内の金額で買えるものを考える	実際の値段を調べ、どのくらいの品物を買くと予算内に収まるのかを経験的に学べるようにする。
作った物を販売しお金を 受け取る（作業：中）		販売した品物がお金に換 わることを体験する	作った品物を販売し、それがお金に換わることを理 解できるようにする。
小遣い帳をつける （生単，数学：中）		使った金額を記入し、お 金の収支を意識する	修学旅行の小遣いの計算などの機会を利用し、計算 をしながら残額を意識した買い物を行う。

情報（高）	消費生活の理解	
① 育てたい力		
高等部 ○労働と報酬の関係の理解と計画的な消費		
・ 計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知る。		
② 解説		
高等部段階では、給与明細の見方、銀行口座開設の仕方、預金、払出しの方法、用紙の記入内容、印鑑や通帳の管理、請求書や領収書の理解、現金自動支払機の使い方、キャッシュカードの使い方や管理、暗証番号の意味、ローンや金利など、金銭を管理するために必要な知識や技術を卒業後の生活に活かせるようにすることが重要である。 自分の所有するお金の範囲内で、計画的に消費することの大切さを知ること生活によりよく営む上で大切である。また、生産、流通、販売、消費という一連の経済活動の中で、労働と報酬の関係や消費を理解することも大切である。		
③ 考えられる指導内容（例）		
単元・題材名	ねらい	留意点
給料（報酬と）生活に必要な費用（総合：高）	労働の対価としての報酬があることを知る	卒業生や、職場の方の話を聞くことで、社会人のお金の使い方の実感が意識できるようにする。
銀行の仕組みについて知る（生単，社会：高）	金利やローン、キャッシュカードの使い方を知る	実際に口座を開設し、実際に作業会計などを管理することで実感がもてるようにする。
一人暮らしの経費（生単，職業：高）	一人暮らしのために必要な1ヶ月の経費が分かる	住居費や食費、光熱費など社会生活にかかる費目や相場を計算し、必要な金額を意識できるようにする。
消費者教育（契約・印鑑）（生単，職業：高）	契約の意味や、印鑑の重要性を知る	ローン等の機能と危険性を理解できるようにする。 また、契約は家族や信頼する人に相談する必要があることを理解できるようにする。

【情報活用能力能力】

はたらくよろこび、役割の理解と働くことの意義 系列

○この系列について

この系列は、係活動や当番活動、職場見学や体験、現場実習などの実際の経験を通して社会に様々な職業があることを知り、それらの職業が社会の中で役割を果たしていることや自らの生活に様々な形で関連していることに気づき、職業に就いて働くことがこれらの役割を果たすことへの貢献であることを理解してしていくことの重要性と、個人と社会との関係を理解し、地域社会の一員としての自覚をもち、自立して社会生活の中で役割を果たす力を育成することを示している。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
	役割の理解と働くことの意義	
はたらくよろこび		

情報（小）

はたらくよろこび

① 育てたい力

小学部：○自分が果たす役割の理解と実行

- ・係活動や当番活動、お手伝いなどの役割を果たし、認められることで役に立つ喜びを感じる。

② 解説

小学部低学年段階では、例えば大人と一緒に配布物を配ったり教材を運ぶなどのお手伝いや係の仕事、家庭では新聞を取ったり、テーブルを拭いたりするお手伝いを行うなどが挙げられる。お手伝いを行い、周囲から感謝される経験を通して、役割を果たすよろこびや力を育てていくことが大切である。

小学部高学年段階では、製作活動の手伝いや教室及びそれ以外の分担された場所の掃除を行うことが考えられる。その際、与えられた役割を果たすだけでなく、係や当番活動の意味を理解して活動することで、学級や学校の役に立っていることが実感できるようにすることが大切である。係や当番活動以外でも、ごみが落ちていたら拾ったり、整理整頓したりすることを自分から気づいて行えるようになると良い。また、家庭でも決まったお手伝いなどを行い、学校生活及び家庭生活の中で役割を分担し、自らの役割を果たすことが自分及び周囲の人々の生活に役に立っていることを実感できるようにすることが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
クラスの係の仕事 （日生：小・低、高）	自分の係の仕事を責任を持って行う	最初は教員と一緒にいき、徐々に友だちとペアで行えるように、または一人で行えるように、指導方法を工夫して段階的に指導していくようにする。
植物の栽培 （日生、遊び、生単：小・低、高）	自分たちの花や野菜を花が咲くまで、収穫するまで育てる	水やりや草取りなどを実態に応じて個別または日替わり、週替わりの当番制で行う。また、栽培日誌等をつけて責任をもって栽培できるようにする。
家庭でのお手伝い実習 （日生、生単：小・高）	家庭で継続的にお手伝いをする	例えば、玄関の掃除や食器の片付けなど、実習という形で家庭で一定期間、継続して取り組み、その様子を発表する。

情報(中高)

役割の理解と働くことの意義

① 育てたい力

中学部：○様々な職業があることや働くことに関する体験的理解

・ 職場見学や実習を通して様々な職業があることを知り，働くことに関心をもつ。

○学校生活、家庭生活において自分が果たすべき役割の理解と実行

・ 学校生活や家庭生活において，自分が果たすべき役割があることを理解し，継続的に実行する。

高等部：○職業及び働くことの意義と社会生活において果たすべき役割の実行

・ 様々な職業が社会や生活に果たしている役割及びその意義を理解する。

・ 社会生活の中で自分が果たすべき役割があることを理解し，実行する。

② 解説

中学部段階では、家庭や学校生活の中で、自分の役割をもち継続的に実行することが大切である。その際、その仕事や家庭や学校という中で役割を担っていることを意識できるようにしていくことが大切である。即ち「お手伝い（誰かの仕事を手伝う）」ではなく、「私が（分担された）仕事を遂行する」という意識である。そしてその役割を果たし，認められる経験を通して自分が家庭や学校の中の一員であるという自覚を育てていくことが大切である。

また，家庭，学校だけでなく，職業や地域における役割についても目を向けていく必要がある。職業の役割については，社会には様々な職業があることを現場実習などの実際の体験を通して実感できるようにしたい。さらに併せて，作業学習や実習における達成感や成就感，作った製品を買ってもらう満足感を得ることによって働くことへの関心や喜びがもてるようにしたい。

高等部段階では、様々な職業が社会や生活に果たしている役割を生徒が理解できるようにしたい。そのためには，生徒が行った活動が学校や地域の人々に及ぼす影響や意義を具体的に気づけるようにし，働くことを通してのやりがいや喜びをもてるようにすることが大切である。

また，個人と社会との関係を認識し，社会の中の一員として自分ができる活動を行っていくことも大切である。例えば，生徒会活動の一環として全校生徒に呼びかけ，地域の美化活動を企画したり，地域のリサイクル活動に参加したりすることなどが考えられる。また，福祉の授業の中で地域の老人ホームで実習を行うなど，学校教育の中に社会に貢献する活動を計画的，継続的に位置付けることも重要である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
仕事調べ （生単，社会：中）	住んでいる地域の職業や職種を調べてまとめる	本やインターネットで職業を調べ，実際に地域の中で働いている人に「何のために働いているか」などをインタビューして，働いている人の仕事に対する思いを感じることができるようにする。
よりよい製品作りを考える （作業：高）	人の意見を参考に製品の改良をし，よりよい製品作りをする	製品を買った人からの感想や意見、使用している写真を届けてもらい、改善のアイデアとしたり、製作への励みとしたりする。
地域の清掃活動 （総合，特活：中・高）	学校近隣の清掃活動を通して，地域の一員としての意識を育てる。	自分たちが利用している近隣の施設の中から自分たちで清掃場所を決めて、活動に取り組めるようにする。また，地域の人にも呼びかけ参加してもらう。

キャリアプランニング・マトリックス(試案)

観点解説 改訂版

【将来設計能力】

この能力領域について

この能力領域は、夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計することを示している。

〈構成図〉

	小学部	中学部	高等部
将来設計能力	習慣形成		
	夢や希望		
	やりがい	生きがい・やりがい	
		進路計画	

考えられる指導内容（例）の凡例

「単元題材名」の（ ）内の注釈

《指導形態、教科・領域名》

日生・・・「日常生活の指導」
 遊び・・・「遊びの指導」
 生単・・・「生活単元学習」
 作業・・・「作業学習」
 総合・・・「総合的な学習の時間」
 特活・・・「特別活動」

《学部等》

小・低・・・小学部・低学年
 小・高・・・小学部・高学年
 中・・・中学部
 高・・・高等部

【将来設計能力】

習慣形成 系列

○この系列について

この系列は、職場で働くための基礎的な力を身につけ、将来の職業生活の維持や発展のために必要な生活づくりの習慣形成が重要であることを示している。その際、自分の生活をよりよいものにしていこうとする姿勢や自分の意思で適切にマネジメントしていく視点が重要である。また、そのためには家庭や関係機関との連携が重要である。職業生活に必要な習慣形成としては、基本的な生活習慣、安全・衛生・健康、時間管理、体力などが挙げられる。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
習慣形成		

将来（小）

習慣形成

① 育てたい力

小学部：○家庭、学校生活に必要な習慣づくり

・家庭や学校生活に必要な基礎的な習慣を形成する。

② 解説

小学部段階では、児童の実態に合わせて早期から家庭や学校生活に必要な習慣づくりをしていくことが大切である。その際は、保護者や寄宿舎指導員などと連携を図り、手順や支援方法を共有し継続的に取り組む必要がある。児童が補助具を用いるなど、必要に応じて援助を受けながら自分でできるようにすることが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

項目	内容
基本的な生活習慣（小）	補助具を用いたり、必要に応じて援助を受けながら、食事、用便などを行うことが挙げられる。特に早期から生活リズムを整えることが重要である。
安全・衛生・健康（小）	必要な支援を受けながら、健康で安全な生活をする。また、体調が悪いときやけがをしたときは誰かに伝え、無理をしないようにする。また、安全に配慮して道具の正しい使い方を知ることが大切である。
時間管理（小）	タイムタイマーやスケジュール表などの手がかりを基に活動を始めたり、終えたりする。また、休憩時間に用便を済ませることも大切である。
体力（小）	ランニングやウォーキングなど健康や体力の維持・向上のために必要な運動に継続して取り組み、習慣化する。

※上記の項目は、単に技能を身につけるのではなく、自分の生活を自分で管理、維持していくことを目指すことが大切である。

将来(中高)	習慣形成																		
① 育てたい力 中学部：○職業生活に必要な習慣形成 ・将来の職業生活に向けた基本的な習慣の基礎を形成する。 高等部：○職業生活に必要な習慣形成 ・職業生活を遂行するのに必要な実践的な習慣を形成する。																			
② 解説 中学部段階では、将来の働く生活を想定し、自分なりに意識できるようになることが大切である。そのためには職場見学の際に卒業生の話や事業所の人の話を聞いたりすることを通して、なぜこの習慣が必要であるかの理解を促す働きかけが大切である。 高等部段階では、職業生活を遂行するのに必要な実践的な習慣を身につける。例えば、現場実習を通して、自分の生活を考えたり、実際に自分の生活を見直したりすることも大切である。現場実習で挙げられた課題については、今後、どのように改善すべきか考え、日常の生活でも応用できるようにすることが重要である。																			
③ 考えられる指導内容（例） <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本的な生活習慣（中）</td><td>一人ですることを増やすとともに、家庭生活等で必要な調理などの基礎的知識技能を身につける。</td></tr> <tr> <td>安全・衛生・健康（中）</td><td>自ら安全を意識し、道具や機械などを使用する。また製作したものが人に触れて落ちないような置き方を工夫したり、作業場所を離れる際は道具を片付ける。さらに、手洗いやうがいなどの必要性を体験的に学ぶ。</td></tr> <tr> <td>時間管理（中）</td><td>時計やタイムタイマーなどを活用し、開始時間や終了時間を意識しながら作業学習などに取り組むことが挙げられる。</td></tr> <tr> <td>体力（中）</td><td>自分が好きな運動を継続的に取り組むことで体力の維持、増強を図る。また、ラジオ体操を身につけ、日常的な体力の増進も図る。</td></tr> <tr> <td>基本的な生活習慣（高）</td><td>社会自立に向けて必要な習慣を身につける。例えば、職業生活においては遅刻や無断欠勤をしない勤務態度を身につけるなども含める。</td></tr> <tr> <td>安全・衛生・健康（高）</td><td>作業環境下で常に安全を意識する。自らの健康促進や病気予防に関する知識を身につけ、健康保持の大切さを意識する。</td></tr> <tr> <td>時間管理（高）</td><td>スケジュールに合わせて、仕事と自分の生活を組み立てる。また、自分で長期休業中の生活を計画し、それを実行したり、1年間の学校生活に見通しをもちながら生活する力を高める。</td></tr> <tr> <td>体力（高）</td><td>将来の自分の職業を想定した体力を身につける。例えば、職場によっては、一定時間同じ姿勢（立ち続ける、座り続ける）を保持できることや同じ体の動きを繰り返すことが求められる場合もある。</td></tr> </tbody> </table> ※上記の項目は、単に技能を身につけるのではなく、自分の生活を自分で管理、維持していくことを目指すことが大切である。		項目	内容	基本的な生活習慣（中）	一人ですることを増やすとともに、家庭生活等で必要な調理などの基礎的知識技能を身につける。	安全・衛生・健康（中）	自ら安全を意識し、道具や機械などを使用する。また製作したものが人に触れて落ちないような置き方を工夫したり、作業場所を離れる際は道具を片付ける。さらに、手洗いやうがいなどの必要性を体験的に学ぶ。	時間管理（中）	時計やタイムタイマーなどを活用し、開始時間や終了時間を意識しながら作業学習などに取り組むことが挙げられる。	体力（中）	自分が好きな運動を継続的に取り組むことで体力の維持、増強を図る。また、ラジオ体操を身につけ、日常的な体力の増進も図る。	基本的な生活習慣（高）	社会自立に向けて必要な習慣を身につける。例えば、職業生活においては遅刻や無断欠勤をしない勤務態度を身につけるなども含める。	安全・衛生・健康（高）	作業環境下で常に安全を意識する。自らの健康促進や病気予防に関する知識を身につけ、健康保持の大切さを意識する。	時間管理（高）	スケジュールに合わせて、仕事と自分の生活を組み立てる。また、自分で長期休業中の生活を計画し、それを実行したり、1年間の学校生活に見通しをもちながら生活する力を高める。	体力（高）	将来の自分の職業を想定した体力を身につける。例えば、職場によっては、一定時間同じ姿勢（立ち続ける、座り続ける）を保持できることや同じ体の動きを繰り返すことが求められる場合もある。
項目	内容																		
基本的な生活習慣（中）	一人ですることを増やすとともに、家庭生活等で必要な調理などの基礎的知識技能を身につける。																		
安全・衛生・健康（中）	自ら安全を意識し、道具や機械などを使用する。また製作したものが人に触れて落ちないような置き方を工夫したり、作業場所を離れる際は道具を片付ける。さらに、手洗いやうがいなどの必要性を体験的に学ぶ。																		
時間管理（中）	時計やタイムタイマーなどを活用し、開始時間や終了時間を意識しながら作業学習などに取り組むことが挙げられる。																		
体力（中）	自分が好きな運動を継続的に取り組むことで体力の維持、増強を図る。また、ラジオ体操を身につけ、日常的な体力の増進も図る。																		
基本的な生活習慣（高）	社会自立に向けて必要な習慣を身につける。例えば、職業生活においては遅刻や無断欠勤をしない勤務態度を身につけるなども含める。																		
安全・衛生・健康（高）	作業環境下で常に安全を意識する。自らの健康促進や病気予防に関する知識を身につけ、健康保持の大切さを意識する。																		
時間管理（高）	スケジュールに合わせて、仕事と自分の生活を組み立てる。また、自分で長期休業中の生活を計画し、それを実行したり、1年間の学校生活に見通しをもちながら生活する力を高める。																		
体力（高）	将来の自分の職業を想定した体力を身につける。例えば、職場によっては、一定時間同じ姿勢（立ち続ける、座り続ける）を保持できることや同じ体の動きを繰り返すことが求められる場合もある。																		

【将来設計能力】

夢や希望 系列

○この系列について

この系列は、将来の職業や生活について生徒自らが夢や希望をもち、願いを実現するためにはどうしたらよいかを考える力を育てることが重要であることを示すものである。「夢や希望」はキャリア発達を支える中核をなすものである。教師は小学部段階から、本人の願いに寄り添い、「夢や希望」を尊重した支援を大切に積み上げていくことが重要である。本人の願いを引き出す手法としてPATH、ドリームカード、ドリームマップ等を活用した取組などが考えられる。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
夢や希望		

将来（小）

夢や希望

① 育てたい力

小学部：○職業的な役割モデルへの関心

- ・身近な職業や働く人に関心をもつ。

② 解説

小学部段階では、家庭や親戚、身近な地域生活の中から職業的モデルに接することが大切である。「いつも乗るバスの運転手さんみたいになりたい」、「お父さんみたいな仕事をしたい」などの職業的モデルや「お母さんみたいになりたい」などの家庭的モデルなどへの意欲がもてるような経験が大切である。現実的な役割モデルだけではなく、「ウルトラマンになりたい」といった空想に対する憧れももつことがある。支援者はその憧れを否定するのではなく、受容し、それを指導に活かす姿勢が大切である。「かっこいい」、「なりたい」、「やってみたい」と思える経験の積み重ねがキャリアファンタジー（将来の夢や希望）を描くことにつながる。

自分の願いを表出することができない児童もいる。その場合は、児童との日々のかかわりの中から本人のよさや長所に基づき、本人の願いを丹念に拾い上げていくことが重要である。また表出がある場合でも、その願いの背景を読み取ることが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
好きな乗り物を調べて、見に行こう (生単：小・低)	好きな乗り物について調べ、本物に触れることで夢をひろげる	好きな乗り物を徹底的に調べるための時間を十分に保障する。最後は校外学習で本物に触れる機会を設定し、夢をさらに広げるようにする。
働く人になってみよう (生単：小・高)	身近な職業の格好や道具を使う体験を通して職業に対する憧れをもつ	消防士、コック、運転手、パティシエなど身近な職業の格好をし、その職業に関連する本物の道具を使う経験をすることで、やってみたい、なりたいと実感がもてるようにする。
ウルトラマンのように強い体をつくろう (日生、体育：小)	マラソンを通して強い体を作る	例えば、ウルトラマンが好きな児童に対し、走る前にウルトラマンならどのくらい周回できるか、どんな格好で走るかなどを児童と一緒に考えることである。こがれの対象を意識して走るようにする。

将来(中高)		夢や希望	
① 育てたい力			
中学部：○将来の夢や職業への憧れ ・将来への夢や憧れの職業をもつ。			
高等部：○働く生活を中心とした新しい生活への期待 ・職業生活を思い描き、新しい生活へ期待をもつ。			
② 解説			
中学部段階では、現場実習などを通して小学部段階での憧れを少しずつ具体的な職場へ近づけていくことが大切である。また、中学部卒業後の進路を決定する際には、将来の夢を大切にしながら、どのような選択肢があるか、本人自身が考えられるような支援が必要である。そのためには生徒の夢や憧れの背景を読み取り、汲み取る姿勢が大切である。例えば、「市長になりたい」と言う生徒の願いに対して、そのことばの背景を考慮し、その生徒が今までどのような経験をし、どのようなことを感じてきたか(市長室は広い…広い空間へのあこがれ、多くの人が会いに来る…人とかかわることを求めている等)を含めて考えることが大切である。 現場実習では、作業で本人が認められる経験を通して、働くことに対する憧れやまたやってみたいと思えるイメージがもてるような質のよい体験ができるように配慮する必要がある。			
----- 高等部段階では、「夢や希望」から、少しずつ現実の自分の生活に結びつけていきたい。その際、「夢」と「現実」の間で折り合いをつけていくための学習が必要である。卒業生による進路講話などにおいて、仕事の様子や給料、一人暮らしの様子など、具体的に話を聞くことは現実的なイメージをもつために有効な方法でもある。また、生徒自らの意思で課題を設定し、仲間たちとの集団討論を通して解決方法を探り、課題解決に取り組む方法もある。さらに、自分自身で気づくことを大切にするすることで、より具体的で実現可能な課題をこなすことができるようになる。 人との出会い、初めての経験など、働くことを中心とした新しい生活に不安をもちながらも期待する気持ちを育てていくことも大切である。10年後、20年後の自分はどのような職に就いて、どんな人と結婚し、どんな家に住んでいるかなど夢や希望を語ることが重要である。			
③ 考えられる指導内容(例)			
単元・題材名		ねらい	留意点
自分の願いや希望の実現に向けて (生単，総合：中・高)		願いや希望の実現方法を考える	自分の願いや希望を思いつく限り書き出す。それぞれについて今、自分がどうしたら良いのかを発表するとともに、仲間からも意見をもらい、願いの実現に向けて取り組めるようにする。
将来の自分に手紙を書こう (生単，総合：中・高)		10年後の自分の姿を想像して手紙を書く	自分がやりたいと思っていること、憧れている人、なりたい職業、将来どんな生活をしているのかの予想などを箇条書きして10年後の自分に向けて手紙を書く。
グループホーム体験 (生単，総合：高)		グループホームでの生活について知る	グループホームを見学し、そこを利用している人から話を聞く機会を作り、理解を深めるようにする。実際にグループホームでの生活を体験することにより、将来の生活の場についても考える機会とする。

【将来設計能力】

やりがい、生きがい・やりがい 系列

○この系列について

この系列は、社会自立に向け、動くことを含めて意欲的に取り組む姿勢が自己を生かし、よりよい生き方ができることに結びついていくという気づきを育てることが重要であることを示している。

また「生きがい・やりがい」は様々は価値観をもつ包括的内容であり、個性を尊重しながら、それぞれにとって「生きがい・やりがい」と思える事に出会うことが大切である。例えば、スポーツの好きな生徒であれば、大会を目指して日頃からスポーツに取り組む、独自の検定制度を考案し、茶道の授業を導入する、漢字検定やパソコン検定、ホームヘルパーの資格取得などに取り組むことなどが考える。段階を追って級をとっていくことが励みにもなり、継続する意欲へとつながっていくと考えられる。また、コンサートに行くことや、地域の人々、専門家とともに音楽や美術などの芸術的な活動を通して自分を表現することが自己実現につながり、充実感、達成感へとつながる。在学中に本人が出会った事を卒業後の支援へつなげていくことが大切である。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
	生きがい・やりがい	
やりがい		

将来（小）

やりがい

① 育てたい力

小学部 ○意欲的な活動への取組

- ・思う存分活動に取り組み、物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。

② 解説

小学部段階では、思う存分活動に取り組み、「やり遂げる」経験を大切にする。教師は、児童のやり遂げたいという気持ちを大切に、児童が自分なりの充実感や満足感が得られるように援助することや、やり遂げたことをともに喜ぶことが必要である。

また「これはできる」、「これは得意」さらには「これはやってみたい」と思えるような学習活動を設定し、達成感を得られるよう配慮しながら、多様な経験ができるようにすることも大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
広場で遊ぼう (遊び：小・低)	体をいっぱい使って好きな遊びをする	一人一人が思う存分遊んだと感じられるように、スペースや遊びのコーナー、教材・教具の数、時間などを十分確保する。
郵便屋さん (生単：小・高)	投函された手紙を責任をもって友だちに届ける	校内にポストを設置し、友だちへの手紙を投函してもらう。取扱いに注意して宛先の友だちに届けることをとおして、「ありがとう」と感謝される経験がたくさん得られるようにする。

将来(中高)		生きがい・やりがい	
① 育てたい力			
中学部 ○様々な学習活動への自発的な取組			
・好きな活動への意欲を様々な学習活動へつなげる。			
高等部 ○職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用			
・働くことにやりがいを感じることで及び将来設計に基づいた余暇活動の活用を考える。			
② 解説			
中学部段階では、自分の好きな活動をもつことで自発性を高めることに重点が置かれる。その自発的な態度が周囲に認められることにより、意欲へとつながり、学習活動全体に波及していく。補助具の活用など、できるだけ少ない支援で自分の力でやり遂げる経験を重視する。そのことで、本人の充実感や、達成感が大きくなり、将来のやりがいへとつなげることができると考える。			

高等部段階では、働くことをはじめ意欲的に取り組むことが、自己を生かし、よりよい生き方ができることに結びついていくということを、現場実習等の体験を通してできるだけ実感できるようにしたい。併せて卒業後の社会生活を見据えて、自分の趣味の充実を図ることや、職場でのサークル活動への参加の仕方、余暇活動に伴う公共施設の利用方法を学ぶ機会を設け、卒業後の充実した生活につなげたい。在学中に学んだことや体験したことが卒業後も取り組める場を見つけられるよう、支援していくことも大切である。			
余暇の活用については、生活を「楽しむ」という側面の他、余暇の活用を通して「ストレスを解消する」という面でも効果的である。生徒自身でどのようにストレスを解消したら良いか考え、それを実行する経験を積めるようにすることが大切である。また地域で、相談できる窓口の人と実際に話す機会を設定することも大切とである。			
このように余暇の充実を図ることは、卒業後の生活の「生きがい」を考える上で大事なことであるが、無理に余暇活動をさせたり、気の乗らない余暇を過ごしたりするのではなく、本人が選択し、そのことが本人にとって意味のあることが重要である。人によっては、仕事が充実することで、「働くこと」自体に「生きがい」を見い出す場合もあるため、広い意味で本人にとっての「生きがい」を捉え、支援していく必要がある。			
③ 考えられる指導内容（例）			
単元・題材名		ねらい	留意点
販売会を成功させよう （作業，生単：中）		販売会に向けて大量の製品を製作する	販売会に向けて多くの人にとって買ってもらえるように、たくさんの製品を作るようにする。毎回の製作数、出来上がりを確認しながら製作意欲を高めるようにする。
お弁当作りと販売 （生単：高）		注文を受けたお弁当を作る	ただ販売するだけでなく、食べてくれた人に感想や意見をインタビューし、次のメニュー開発に生かすようにする。また食べている様子の写真を送ってもらい調理する意欲を高めるようにする。
趣味をひろげる （生単，総合：中・高）		太鼓の奏者から太鼓の打ち方を学ぶ	定期的に太鼓の奏者を招き、演奏の仕方を学べる場を設定する。また、年度末に演奏会を企画し、授業の成果を保護者や地域の人に聞いてもらう。

【将来設計能力】

進路計画 系列											
○この系列について この系列は、将来の目標を実現するためにはどうしたらよいかを考え、計画する力を育てることを示している。生徒自身が進路を計画していけるように体験などを通した具体的で丁寧な情報提供をしていくことが重要である。											
○系列の構成図 <table border="1"> <tr> <td>小学部</td><td>中学部</td><td>高等部</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td colspan="2">進路計画</td></tr> </table>			小学部	中学部	高等部					進路計画	
小学部	中学部	高等部									
	進路計画										

将来(中高)	進路計画	
① 育てたい力		
中学部：○目標を実現するための主体的な進路計画		
・将来設計に基づき、主体的に進路計画をたてる。		
高等部：○将来設計に結びつく進路計画		
・将来設計に結びつく進路計画を行い、卒業後の生活に期待をもつ。		
② 解説		
中学部段階では、進路選択までの流れがわかり、本人の夢や希望、現場実習や学校見学など、様々な経験に基づいて、自分の進路を考えることが望ましい。		
進路先を決定するために、必要に応じて教師や保護者と相談しながら進路先を決めることが大切である。その際、親や教師が決めるのではなく、生徒が自ら進路を決定したという実感をもつことが大切である。また、生徒の実態に合わせて、将来のことを考える学習も大切である。（将来こんな仕事をしたいからこんな学習ができる○○へ進学しよう）などである。		
高等部段階では、様々な可能性の中から本人が自ら進路を決定できるような進路計画が大切である。ただ進路先を決めるということだけでなく、将来はグループホームやアパートで生活してみたいなど、自らの生活設計（ライフプラン）を考える学習が重要である。例として、卒業後の自分の生涯にわたる生活がどのようになるかを図などを活用する学習などが挙げられる。		
③ 考えられる指導内容（例）		
単元・題材名	ねらい	留意点
卒業後の進路 （生単，総合：中）	高等部以降の進路を意識する	中学部以降のライフプランを作成し、今後の人生の流れについて示し、自分が今どの位置にいるか分かるようにする。
先輩を招いて話を聞こう （生単，総合：中）	進学先の先輩を招き、高等部生活の様子を聞き、自分の進路を考える	進学先の先輩を招き、学校の様子や中学校（中学部）との違いを聞く。そのためにインターネットや資料などで質問内容をあらかじめ調べておく。
高等部の生活 （生単，総合：高）	卒業までの進路の流れを知り、自立に向けての意識を高める	高等部3年間の進路計画を視覚的に常に確認できるように掲示し、進路について見通しがもてるようにする。また進路に向けての各時期のテーマを設定し、意欲的に取り組めるようにする。

キャリアプランニング・マトリックス(試案)

観点解説 改訂版

【意思決定能力】

この能力領域について

この能力領域は、自らの意志と責任でよりよい選択、決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服することを示している。

〈構成図〉

	小学部	中学部	高等部
意思決定能力	目標設定		
	自己選択	自己選択(決定・責任)	
	振り返り	肯定的な自己評価	
		自己調整	

考えられる指導内容(例)の凡例

「単元題材名」の()内の注釈

《指導形態、教科・領域名》
 日生・・・「日常生活の指導」
 遊び・・・「遊びの指導」
 生単・・・「生活単元学習」
 作業・・・「作業学習」
 総合・・・「総合的な学習の時間」
 特活・・・「特別活動」

《学部等》
 小・低・・・小学部・低学年
 小・高・・・小学部・高学年
 中・・・中学部
 高・・・高等部

【意思決定能力】

目標設定 系列

○この系列について

この系列は、希望を実現したり課題を解決するために、実行可能で具体的な目標を設定する力を育てることの重要性を示している。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
目標設定		

意思（小）

目標設定

① 育てたい力

小学部：○目標への意識，意欲

・自分でやろうと決めたことを最後までやり遂げる。

② 解説

小学部段階では、まず様々な活動の中で子どもの「やりたい」という気持ちを引き出すような環境の工夫が大切である。そして教師と一緒に目標を決めて活動に取り組み、やり遂げることによって達成感がもてるようにしたい。目標を立てる際には、「何をどのように頑張るか」を本人が決められるように準備したり、選べるようにしたりすることも大切である。最後までやり遂げることによって得られる達成感は、「またやってみたい」といった次への意欲にへとつながり、目標達成までの見通しや目標に向かって最後までやり遂げる基盤にもつながる。

また、家庭との連携においては、学校行事に対する目標などを共有することが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
遊びの活動（遊び：小）	教師と一緒に目標を決めて活動に取り組む	本人が「やってみたい」と思える活動を準備し、「何回やる」、「何個積み上げる」など本人とと一緒に目標を立てて取り組むようにする。目標を達成した場合には褒めるようにする。
朝の運動（日生：小）	自分で周回数を決めて走る	目標周回数、現在の周回が視覚的に分かるように配慮し、目標周回数走りきったら大好きなシールを渡し、記録帳に貼れるようにする。また、どれだけ走ったか視覚的に分かるように、地図に表すことなどにより、目標達成を意識できるよう心がける。

意思（中高）

目標設定

① 育てたい力

中学部：○目標の設定と達成への取組

・自分の決めた目標に向けて自分で課題を解決しようとする意欲をもつ。

高等部：○将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組

・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立てて、その解決に向けて取り組む。

② 解説

中学部段階では、目標の実現に向けてのプロセスを自分で組むことができるようにしたい。まずは本人にとって身近で短期間に達成できるような目標を立てることからはじめ、やり遂げたという成功体験をもてるようにすることに重点を置く。その際、数量や行動など具体的に評価しやすい目標を立てることが大切である。例えば、特別支援学校版の清掃検定制度などは、「これができたら○級」という明確な目標が示されることで、生徒が意欲をもって活動に取り組むことができ、合格することで自信が生まれ、意欲も高まり、自ら次の目標を設定することにもつながる。

また、段階を追って、少し困難なことや長期的な目標を立てるような場面を設定することも大切である。さらに、中学部卒業後の進路選択場面も目標設定の大切な機会となる。

高等部段階では、目標設定とともに実現までの道筋を意識し、今自分がしなければならないことを考え、取り組むことを重視する。長期的な目標を設定する場合、意欲の低下や自分が何をしたらいいのか分からなくなることもあるので、教師は定期的に目標に対する進行状況の確認など、配慮する必要がある。

目標設定の例としては、「総合的な学習の時間」などにおいて、自分で課題を設定し、方法を考え、解決していくという過程を学校の学習に位置付け、全校で取り組んでいるものがある。そこでは教室に個人の課題が掲示され、本人や周りの人からも意識されるような配慮がなされている。個々の課題は様々であるが、話し合いの時間が設定され、自分の課題を発表したり、お互いの課題に対して解決のためのアドバイスをするような学習も行われている。本人にとって実現が難しい目標設定がなされている場合もあるが、大切なことは本人の立てた目標が尊重されることである、

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
販売に向けた製品づくり （作業、生単：中）	目標数に向けて製品を作る	最終的な販売目標だけでなく、毎時間製作目標数を決め、製作に取り組むようにする。作業終了後目標が達成できたかを確認し、達成できなかった場合は、改善策を考えられるようにする。
現場実習報告会を受けて これからの自分を考える （総合、職業・家庭：中・高）	報告会での自己評価、他者評価を受けて卒業までの目標をたてる	自己評価、他者評価の内容が分かるように提示し、今後の具体的な目標や目標達成のための具体的な方策を立てられるように支援する。
10年後の自分 （生単、総合：中・高）	10年後の自分が、どうなっていきたいかを発表する考える	10年後の目標に対して、今、自分が何をすべきかクラスで話し合う場面を設ける。友だちの意見を受けて自分で目標達成のための方策を考え、発表する。

【意思決定能力】

自己選択，自己選択（決定・責任） 系列

○この系列について

この系列は，選択し，決定したことを受け入れ，それに伴う責任を果たすという一連の課程を経験しながら，よりよい自己選択に必要な力を示している。社会自立に向けて，自分の意思と責任でよりよい自己選択をするためには，小学部・中学部の段階から経験を積み上げていくことが大切である。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
	自己選択（決定・責任）	
自己選択		

意思（小）

自己選択

① 育てたい力

小学部 ○遊び，活動の選択

・自分の好きな遊びや活動をもち，進んで取り組む。

② 解説

小学部段階では，自分の好きな遊びや活動を選択することにより，その活動に精一杯取り組めるようにしたい。児童が取り組んでみたいと思えるような遊びや活動を準備し，選択した活動が楽しかったという充実感や満足感を味わえるようにすることが大切である。また，選択する力を培うためには，児童の興味・関心が持てるような活動を見極める必要がある。多様な経験を通して，選択の幅を拡げられるようにすることも大切である。

この段階における選択は，選ぶための手がかりや選択肢の数に配慮する必要がある。選択肢の数については，2つの選択肢からはじめ，徐々に選択肢を増やし，その中から選んでいけるようにしたい。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
好きな活動を選ぶ （遊び：小）	自分で活動を選んで遊ぶ	「やってみたい」と思えるような遊びコーナーを準備し，児童自身が選択して思う存分活動できるようにする。
好きなおやつを買おう （生単，遊び：小）	模擬店で好きなおやつを選んで買う	児童の実態に応じて段階的に選択ができるように工夫する。
自動販売機で好きなジュースを買おう （生単：小）	好きなジュースを選ぶ	押し間違いなどの失敗をしないように，しっかりと選んだものを意識してボタンを押すように支援する。一度選んだものは交換できないことが分かるように支援し，間違った場合は，次から間違えずに気を付けて選択することにつなげていくようにする。

意思（中高）

自己選択（決定・責任）

① 育てたい力

中学部

○自己の個性や興味・関心に基づいたよりよい選択

・自己の個性や興味，関心等に基づいてよりよい選択をしようとする。

○進路先に関する主体的な選択

・見学や体験を基に，進路先を主体的に選択する。

高等部

○産業現場等における実習などの経験に基づく進路選択

・産業現場等における実習などの経験を基に，自分の意志と責任で主体的に進路を選択する。

② 解説

中学部段階では，自己の興味・関心に基づいた選択をし，決定する経験を重視する。選択することにより，活動が充実するという経験を積み重ねることで，自信をもって選択できるようになることが期待される。また経験の積み重ねができるように，様々な学習場面で選択する機会を設けていく。

また中学部卒業後の進路選択については，本人が主体的に決定するために，校内体制を整えるとともに自校の高等部や他の学校の高等部，福祉，労働などの関係機関との連携が大切である。見学，体験する機会を設け，本人が選択できるように支援していくことが大切である。

高等部段階では，学校や家庭などから現場実習へと，より広い世界での体験をもとに選択することになる。その際には，自分で情報を収集し活用する力（情報活用能力）や，計画を立てて実行する力（将来設計能力）も併せて必要となる。教師や保護者は，本人の様子を見ながら，相談に乗り，アドバイスをするなどの支援を行うことが重要である。

また，「選択（決定，責任）」という一連の過程を数多く経験する方法の1つとして，ロールプレイを学習場面に取り入れることも有効である。例えば，この場面ではどのように行動すればよいか（選択）」「実際に行動（決定）してみる」といった演習を通して，経験を積んでいくことにもつながる。友だちと一緒に学習することで，他の考えを受け入れたり，自分を客観的に見たりすることにもつながるものと考ええる。

「責任」については，児童・生徒の発達段階によって内容も違ってくるが，小さい時期から選択の結果には必ず責任が伴うということを経験させていく必要がある。結果の是非（うまくいったか，うまくいかなかったか）だけに目を向けずに，「自分で決定していく過程」に価値を置くようにする。結果的には，自分が希望しないことを受け入れなくてはならない場合もあるが，次の選択場面に生かせるような「振り返り」を行い，本人に次への見通しがもてる支援をしていくことが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
修学旅行事前学習 （生単：中・高）	複数ある見学コースから一つのコースを選択する	それぞれの見学先の内容を詳しく伝え，十分な情報が得られるように配慮し，どのコースを選択するかを本人が決めるようにする。
職場見学の選択 （総合，職業・家庭：高）	いくつかある職場見学先から自分が行きたいところを選択する	職場見学先の資料を提示するだけでなく，実際にその職場で行われている仕事を体験するなどして働くことへの関心を高めるようにする。

【意思決定能力】

振り返り，肯定的な自己評価 系列

○この系列について

この系列は，自ら考え，主体的に意思決定していくために，活動の結果を自ら振り返り，肯定的に評価する力の育成を示している。また，この系列は，その時間を通して自分はどうかだったか，次にどうしていくかを考える力を育むことにもつながるものである。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
	肯定的な自己評価	
振り返り		

意思（小）

振り返り

① 育てたい力

小学部 ○活動の振り返り

- ・活動後に自らの活動を振り返る。

② 解説

小学部段階では，遊びや係活動，学習活動の終了時に，「頑張ったこと」，「楽しかったこと」などを発表し，振り返りの機会をできるだけ設けることが大切である。振り返る際には，視覚的に数量が分かる頑張りカード，シールや活動したことを想起できる手がかりとなるビデオや写真の準備など，本人が具体的なイメージをもつことができるような手立ての工夫が大切である。また，周囲の友だちや教師から認められることで自分のよさに気づく内容なども考えられ，そのことは自分自身を評価することにつながっていく。自己評価だけでなく，帰りの会などで「頑張っていた友だち」を発表し合う他者評価を取り入れることで，さらに自分を肯定的に捉え，活動に対する意欲向上につなげることが期待される。

また「できたーできない」の軸で評価するだけでなく，自分の気持ちを共感してもらう経験の積み重ねも大切である。自分の気持ちが他者に理解され，理解されることを通して自分の在り様に対して肯定的に評価する力を育てることにつながることが大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
活動のまとめ （遊び，生単：小）	活動の中でうまくいったことを発表する	教師や他の児童からもよかった点について発表してもらうことで，本人が自己を肯定的に捉えられるようにする。
一日のまとめ （日生：小）	朝の会で決めた目標の評価を発表する	ゴミ捨てをするなど，具体的で結果が分かりやすい目標設定とする。目標が達成できなかった場合も，その過程においてよかった点を伝えるようにする。
学期のまとめ （生単，特活：小）	継続して行ってきた係活動について，感謝されることを経験する	毎日行ってきた係活動についてクラスで感謝状を作り，感謝の気持ちを伝えあう機会を設ける。その際，一人に対して全員で感謝状を手渡すようにする。

意思（中高）

肯定的な自己評価

① 育てたい力

中学部

○活動場面での振り返りとそれを次に生かそうとする努力

・活動場面での振り返りを基に次の活動に生かそうとする。

高等部

○産業現場等における実習などにおいて行った活動の自己評価

・産業現場等における実習を通して、より客観的、肯定的に自己を評価する。

② 解説

中学部段階では、「振り返り」から次にどのように生かしていくかを考える力を身に付けることが大切である。「ポートフォリオ」の活用により、自分の考えなどの変化を振り返られるようにしていく。「うまくいかなかった」という「振り返り」に基づき、「次はどうしたらよいか」を自分なりに考え、生かそうと努力する態度を大切にしたい。解決の方法が見つからず失敗体験を積み重ねることは、肯定的な自己評価につながらない場合が多いため、教師や保護者は、一緒に解決の方策を考えるなどの支援を行う必要がある。また、肯定的な自己評価を行うことの積み重ねにより、徐々に本人の中により客観的な価値基準が生まれていくことが期待される。

高等部段階では、現場実習の中で学んだことを反省会などで自己評価する機会を設け、そこで学んだ自分の課題点を学校生活にフィードバックしていくことが大切である。自己評価だけでなく、実習先の担当者による他者評価を入れることでより課題点が具体的になる。それを受けて、今後本人がどうしていくかの目標や具体的な方策を考え、実行につなげられるよう一緒に考え、支援していくことが大事である。現場実習後は、本人が主体的に成果や課題、願いを振り返り、それをもとに、進路指導担当者を中心に「企業の求める力」「生徒に必要な力」「どのような指導場面で」「保護者の役割は何か」などを課題分析し、共通理解のもと支援に当たることが大切である。

進路学習の記録を「キャリアノート」として蓄積し、小・中・高へと引き継ぎながら、成長とともに自身の歩みをふり返ることができるような工夫をすることも有効である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
作業学習のまとめ （作業：中）	良かったことや改善点を振り返り、次の活動へ生かす	良かったこと、改善点が生徒自身理解できるような具体的な目標を立てられるよう支援する。また改善点についても具体的なものが挙げられるようにする。
現場実習報告会 （総合、職業・家庭：高）	現場実習での自分を客観的に評価する	生徒自身の評価、現場実習担当者の評価、担任の評価に基づいて、今後どうするかを教師と一緒に考え次の自分を構想できるようにする。
実習先で卒業生と一緒に働く （総合、職業・家庭：高）	体験を通して、働くために必要な力に気づくことができる	卒業生と一緒に働く中で、現実を見つめ、自分の良さだけでなく、卒業生とのとの比較により、自分の足りないことやできないことも考えることができるようにする。

【意思決定能力】

自己調整 系列

○この系列について

この系列は、目的達成や課題解決が求められる場面において経験する様々な戸惑いや葛藤などに対して、様々な選択肢を課題解決のための活用する力を育成することを示している。進路を決定する際に大きな意味をもつ観点だが、この観点が位置付けられていない小学部段階においても様々な場面において留意していく必要のある観点である。

○系列の構成図

小学部	中学部	高等部
	自己調整	

意思（中高）

自己調整

① 育てたい力

中学部，高等部

：○課題解決のための選択肢の活用

・戸惑いや葛藤などに対して、様々な選択肢の中からよりよい選択をする。

② 解説

中学部及び高等部段階では、物事の判断や決定には様々な選択肢があり、自ら納得できる判断を行うために選択肢の意味を理解しようと努めたり、いろいろな選択肢を考えたりする活動を積み重ねていくことが大切である。たとえば進路先など希望していた通りに物事が進まない場合、第二希望を選んで妥協する、他の物を目指す、再チャレンジするといった対処の方法が考えられる。そういった折り合いをつけるレパートリーを教師と一緒に考えながら身につけていくことが大切である。また、このような経験は、よりよい意思決定をするための考え方の柔軟さや自律性を育て、自己管理能力や自己調整力の育成にもつながる。職業生活や社会生活において起こりうる戸惑いや葛藤に対しては、ロールプレイを通して状況の理解と対処方法を学ぶ学習の積み重ねが大切であり、そのためには、様々な場面を想定する必要がある。職場における人とのつきあい方、困った時に誰に相談してどのように伝えるかなどを実際に体験し、それを基に丁寧な振り返りを行いながらよりよい解決策を考えていく活動及び支援が大切である。

③ 考えられる指導内容（例）

単元・題材名	ねらい	留意点
トラブルへの対処方法 (生単，総合：中，高)	様々なトラブルに対しての対処方法を身につける	ロールプレイ体験を通して、様々なトラブルがあること知ると同時に、その対処方法について具体的に考えられるようにする。
人との付き合い方 (生単，総合：中，高)	円滑な人間関係の保ち方を学ぶ	嫌なことをされた場合に、どのような気持ちになるかを実際に考え、想定される人との距離の取り方、やりとりの仕方等の中から自分にとってよりよい方法を選択できるようにする。
卒業後の生活 (生単，総合：高)	卒業後想定されるトラブルや対処方法を知る	障害者就業・生活支援センターなどの支援機関の職員から、実際に起こるトラブルやその対処方法の実例を聞く機会を設定する。